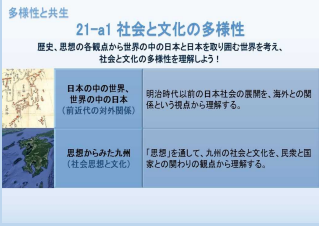


教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールII
テーマ名	21-a1 社会と文化の多様性		
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	森 元斎	責任部局	多文化社会学部
趣 旨	グローバル化が広く進展している現在、私たちはこれまで以上に世界を知る必要に迫られている。そして、このことは必然的に日本（と日本人）を知ることが私たちに求められる。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパといった時空軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなって生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。		
学生の皆さんへのメッセージ	グローバル化が急速に進むなかで、私たちは文化的・社会的・歴史的・思想的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活することになります。「社会と文化の多様性」を学ぶことは、他者を理解し、自己を相対化することに繋がる知的な営みです。こうした状況を生き抜いていくための知恵を共有できればと思います。	説明動画	

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
日本の中の世界、世界の中の日本	木村 直樹	明治時代より前の日本を前近代の日本と言う。近年の前近代の日本列島と世界に関わる研究のトピックスをとりあげ、日本が取り巻く世界と大きく相互に影響しているという視点から、日本の国家・社会が形成されていったことを学ぶ。特に、近世（江戸時代）の海外からの技術の受容という話題も取り上げ、技術と社会についても考えるきっかけとなしてほしい。	九州、対外関係、近代化、技術史
思想からみた九州	森 元斎	近代以降の九州、とりわけ現在の国道3号線沿い周辺域で生じた出来事を、近代化の流れへの抵抗という仕方でも論じ、民衆がどのようにして生きてきたのかを明らかにします。	近代化、国道3号線、九州、アジア、ヨーロッパ、思想史

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えるやり取りする力	⑩ 国際・地域社会への関心	※授業編成の視点	
											A	B
											取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を
日本の中の世界、世界の中の日本	◎		○		○		◎			◎	◎	
思想からみた九州	◎	○			○	○	◎		○	○	◎	○
◎（特に重視）の数	2	0	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0
○（重視）の数	0	1	1	0	2	1	0	0	1	1	0	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

教養モジュール科目案内


カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールII
テーマ名	21-a2 文化の交流と共生		
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	細田 尚美	責任部局	多文化社会学部
趣旨	グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に世界の様々な人たちと共生する必要に迫られています。本モジュールでは、文化人類学と国際関係という2つの学問的アプローチ方法を用い、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、中東といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、人間同士の交流と共生のあり方の多様性について学びます。そのうえでグローバル化にともなっている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を実践的に身につけることを目標とします。		
学生の皆さんのメッセージ	グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。文化の交流の歴史と様々な共生のあり方について知ることは、「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みです。これは、多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力です。本モジュールを受講することで、多様な考え方に向き合い、受講生同士で議論し合い、幅広く柔軟な見方と行動力を伸ばしてください。	説明動画	

科目名	担当者名	概要	キーワード
文化人類学でみる世界と日本	細田 尚美	今を生きる私たちには、世界の様々な文化を背景にもつ人々と交流し、ともに暮らすことが求められています。この授業では、異なる文化というときの文化とは何か、その基本を学ぶとともに、異なる文化を理解しようとする方法についても学びます。自分が慣れ親しんだ考え方からいったん離れて現実をとらえなおす力をつけましょう。	異文化理解、エスノグラフィ、文化人類学
国際関係論	ヌルガリエヴァ リヤリヤ	国際関係は人間関係と同じく複雑ですが、おもしろいです。この授業では、複雑な国際関係を理解することと国際関係に関する基本的な判断力を養うことを目標としています。現代の主要な国際問題（たとえば、平和、環境、難民、寛容など）の背景にある歴史、文化、思想、経済の変化はどのように国際関係の学際的な枠組みを作り上げるのかを検討しましょう。	平和と紛争、国際移民、グローバル化、人間の安全保障

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応											※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	国際・地域社会への関心	取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を
文化人類学でみる世界と日本	○	○	○		◎		◎		○	◎	◎	○
国際関係論				◎	◎		◎	○	○	◎		○
◎（特に重視）の数	0	0	0	1	2	0	2	0	0	2	1	0
○（重視）の数	1	1	1	0	0	0	0	1	2	0	0	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

教養モジュール科目案内

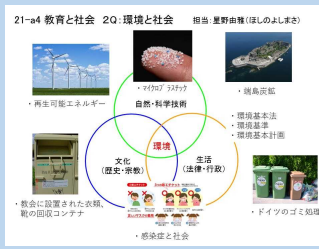
カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールII
テーマ名	21-a3 教育と文化		
対象学部	多文化社会学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	加納 暁子	責任部局	教育学部
趣 旨	本モジュールでは、文化の中でも芸術（美術・音楽）について学習します。教育において、美術（図画工作）、音楽は幼児教育、小学校から高等学校において指導され、豊かな感性を育み、人間の成長にとって必要で大切な分野といえます。本モジュールでは、芸術を多角的な観点から捉え、その表現性や創造性について学び、現代社会において必要となる創造的・想像的思考を培います。		
学生の皆さんへのメッセージ	教育と芸術について関心のある方の受講を希望します。	説明動画	
			

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
美術	牧野 一穂 針貝 綾 兼原 啓二	美術に関する歴史と実技（絵画と彫刻）を通して、美術について多角的に学び、表現力を身に付ける。	美術史、絵画表現、彫刻表現
芸術	加納 暁子 菅野 弘之 中川 泰 金原 雅樹 宮崎 友里子	音楽分野では実践（器楽表現）を行いながら、人間と音楽の関わりについて深く学ぶ。美術分野では実際に制作することで、人間と美術の関わり、美術表現の喜びや感動を学ぶ。	人間と音楽、音楽教育 人間と美術、美術教育

教養モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点	
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への取り扱う	人文科学の内容を
美術	◎	◎	○	○	○	○	◎		◎	◎	◎	
芸術	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	○
◎（特に重視）の数	2	2	0	0	0	0	2	1	1	2	2	0
○（重視）の数	0	0	2	2	2	2	0	0	1	0	0	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

教養モジュール科目案内

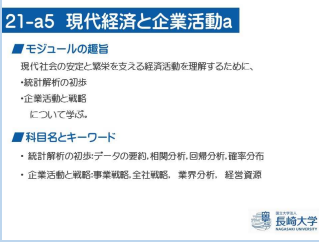
カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールII
テーマ名	21-a4 教育と社会		
対象学部	多文化社会学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	星野 由雅	責任部局	教育学部
趣旨	<p>教育は、今ある社会にすぐに影響を与えるわけではありませんが、教育の本質である人づくりを通じて、将来の社会に大きな影響を及ぼすようになります。モジュール「教育と社会」では、教育が社会に与える影響について、自然科学と環境の学びを通して、考えを深める機会を与えます。自然科学及び環境・の各分野について、身のまわりからグローバルな範囲までの問題・課題を教育現場（学校や地域社会）の視点から学んでゆきます。</p>		
学生の皆さんのメッセージ	<p>教員免許の取得を考えている方、その他広く「教育」に関心のある方も選択可能です。</p> <p>高等学校までの教科の枠組みや理系・文系に制限されない内容で構成しています。諸分野と教育との関わりについて深く考えたり、他の学生たちと議論を交わしたりしてみたいという方は選択してください。</p>	説明動画	

科目名	担当者名	概要	キーワード
身のまわりの科学	隅田 祥光	長崎県に関わる歴史、環境、産業に関わるアクティブラーニングを通じて、プレゼン能力、主体性、論理的思考を養うことを目的に、授業を行う。	歴史 産業 環境 長崎県
環境と社会	星野 由雅	環境と社会がどのように関わっているかを環境基本法などで大まかに捉え、具体例として環境要因がどのように自然環境や人間等に影響を与えているのかを学習し、学校教育の中で、それをどのように扱って行けば良いのかを考える。また、他国の環境と社会との関わりを多角的に調べるとともに、長崎県の環境に関する課題も取り上げ、対策・施策について理解を深める。	環境法規 化学物質 地球温暖化 放射線 エネルギー問題 長崎県

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えるやり取りする力	⑩ 関心 国際・地域社会への	※授業編成の視点	
											A 取り扱う 人文科学の内容を	B 取り扱う 社会科学の内容を
身のまわりの科学	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
環境と社会	◎	◎	○	○	○	○	◎	○	○	◎	○	◎
◎ (特に重視) の数	1	2	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1
○ (重視) の数	1	0	1	1	2	2	1	2	2	1	2	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

教養モジュール科目案内

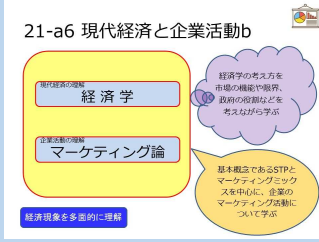
カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールII
テーマ名	21-a5 現代経済と企業活動 a		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	式見 拓仙	責任部局	経済学部
趣 旨	<p>一国の経済は、企業、政府、家計などの経済主体が財、サービス、お金、労働力などを相互にやりとりすることによって成り立っている。このような経済の仕組みを理解する一助として、本モジュールでは企業行動の分析と統計分析の基礎的な話題について学ぶ。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、自発的・積極的に学習を進めていく意欲のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾け、社会現象に対する観察眼・批判的思考力を向上させる努力が求められる。</p>	説明動画	

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
統計解析の初歩	式見 拓仙	経済、社会現象を読み解く上で様々な統計データや統計量を理解しておくことが必要となる。初歩的な統計量から始まり、確率分布、回帰分析、経済データに関するいくつかの統計指標を学ぶ。	統計分析 経済データ
企業活動と戦略	高井 計吾	現代経済において優れた業績をあげている企業と、そうでない企業の差はどこにあるのだろうか。本講義では両者の違いを「戦略」の観点から探求し、業界分析の手法や戦略のビジネスへの応用方法などとあわせて学ぶ。	経営戦略論 企業論

教養モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点	
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心 国際・地域社会への	A	B
式見担当科目	○	○	◎	◎	◎						○	○
高井担当科目	◎			◎	◎				○	○		○
◎（特に重視）の数	1	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0
○（重視）の数	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールII
テーマ名	21-a6 現代経済と企業活動 b		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	島田 章	責任部局	経済学部
趣 旨	現代経済と企業活動を経済学とマーケティング論をつうじて学ぶ。現代経済を理解するために、市場の価格調整メカニズムや限界、それを補うためにおこなわれる政府の経済政策について理解することを目指す。また企業活動を理解するために、企業の戦略をマーケティングの視点から考察し、経営的視点から複眼的で幅広い知識を獲得することを目指す。		
学生の皆さんのメッセージ	<p>前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、自発的・積極的に学習を進めていく意欲のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾け、社会現象に対する観察眼・批判的思考力を向上させる努力を怠らないようにしましょう。</p>	説明動画	

科目名	担当者名	概要	キーワード
経済学	島田 章	市場経済においても、政府は重要な役割をもっている。ミクロ経済学の基礎に基づいて市場の機能と限界を学び、市場経済において政府がどのような役割を果たせるかをマクロ経済学の基礎に基づいて学ぶ。	市場の価格調整メカニズム、政府の役割
マーケティング論	高橋 史早	企業が市場において適切な戦略を展開していくためには、自社の製品・サービスの買手である消費者についての深い理解が不可欠である。この講義では、企業のマーケティング戦略および消費者心理について学ぶ。	ブランド、関与、マーケティング戦略

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応											※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への取り扱う	人文科学の内容を取り扱う
経済学	○	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎
マーケティング論	◎	○	○	○	○		◎		○	○	○	◎
◎ (特に重視) の数	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	2
○ (重視) の数	1	2	2	1	1	1	1	1	1	2	2	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目